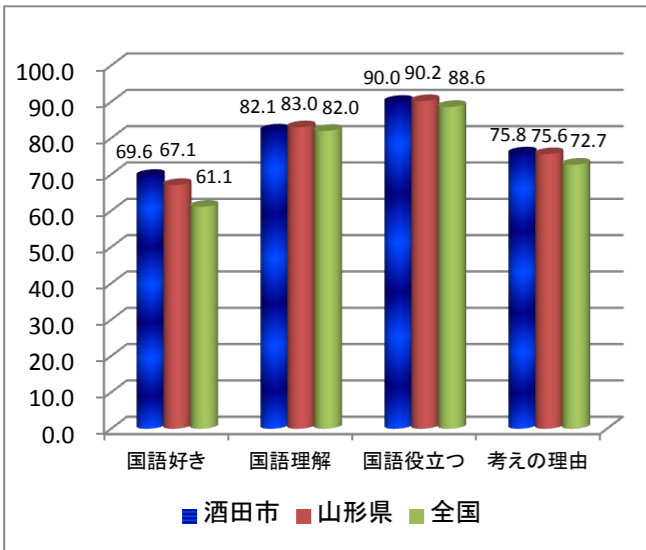


(1) 教科に関する質問

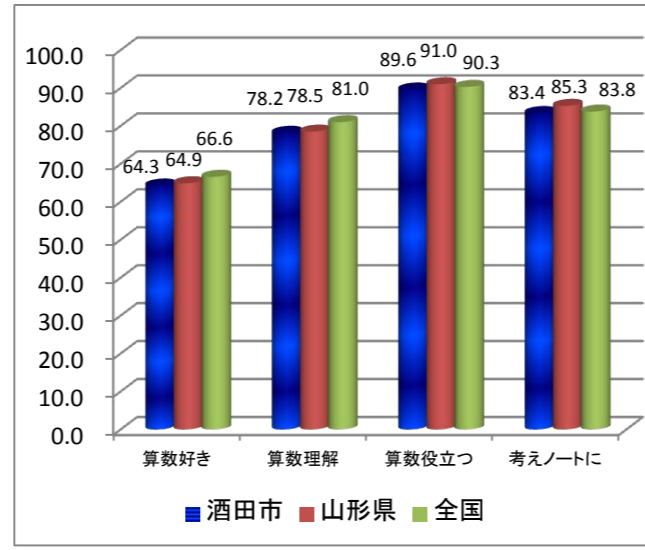
以下の質問に肯定的な回答(そう思う、ややそう思う)をした児童・生徒の割合%

- ①「国語の勉強は好きですか」
- ②「国語の授業内容はよく分かりますか」
- ③「国語で学習したことは将来役に立つと思いますか」
- ④「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由がわかるように気をつけていますか」



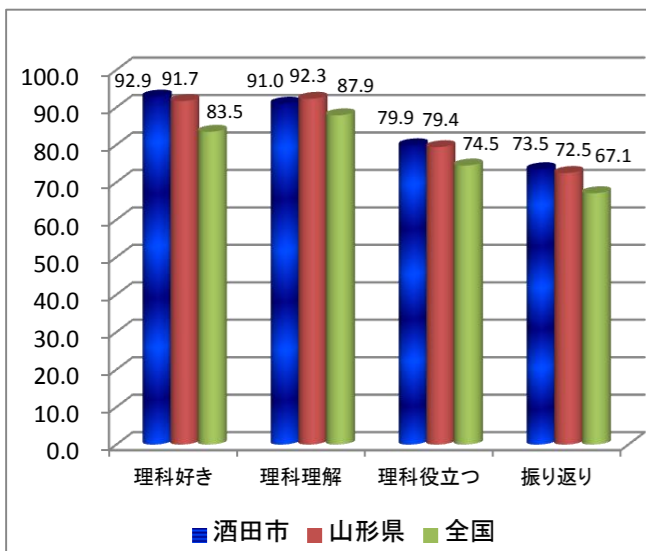
以下の質問に肯定的な回答(そう思う、ややそう思う)をした児童・生徒の割合%

- ①「算数の勉強は好きですか」
- ②「算数の授業内容はよく分かりますか」
- ③「算数で学習したことは将来役に立つと思いますか」
- ④「算数の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いていますか」



以下の質問に肯定的な回答(そう思う、ややそう思う)をした児童・生徒の割合%

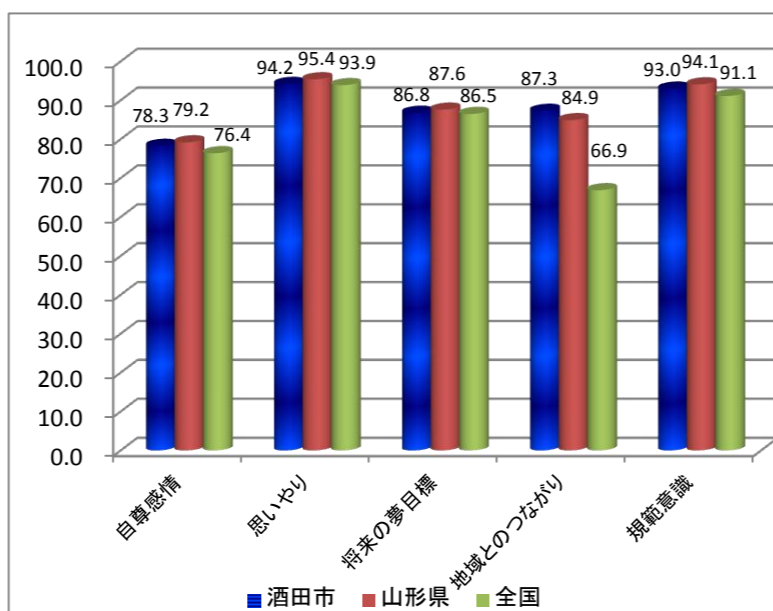
- ①「理科の勉強は好きですか」
- ②「理科の授業内容はよく分かりますか」
- ③「理科で学習したことは将来役に立つと思いますか」
- ④「理科の授業で観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか」



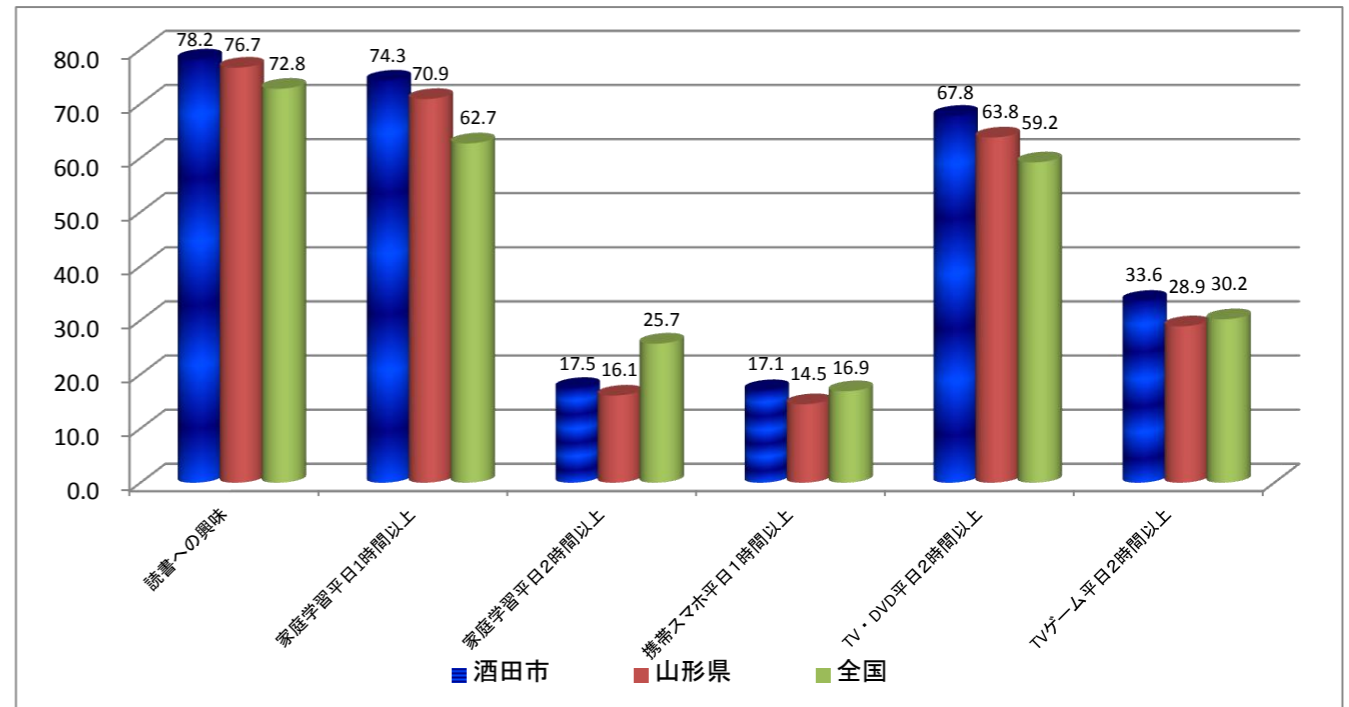
(2) 児童・生徒自身に関する質問

以下の質問に肯定的な回答(そう思う、そうしている)をした児童・生徒の割合%

- ①自尊感情 「自分には、よいところがあると思いますか」
- ②思いやり 「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」
- ③将来の夢 「将来の夢や目標を持っていますか」
- ④地域とのつながり 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」
- ⑤規範意識 「学校のきまりを守っていますか」



(3) 家庭生活に関わる質問 子どもたちの実態(当てはまる、やや当てはまる、児童・生徒の割合%)



教科の状況、児童・生徒自身、家庭生活に関わるものの状況調査の考察 ○よさ ▲課題

○「自尊感情」「思いやり」「将来の夢目標」「地域とのつながり」「規範意識」は全国平均を上回っている。中でも「地域とのつながり」の項目は今年度も、20.4ポイント上回っており学校と家庭が連携して集団や社会生活のルールを大切に育てている成果が表れている。
○理科について「好き」の項目は92.9パーセントと全国平均を大きく上回った。また理科と国語については「好き」「理解」「役立つ」「考えの理由」「振り返り」の項目でも全国平均を上回り、各校で魅力ある授業づくりを進めてきた成果が表れている。
○「読書への興味」は昨年以上に高い結果であった。国語の授業の中で、多くの本に触れさせ、読書に興味をもたせたり、学校や家庭・地域が朝読書や読み聞かせなどへの取り組みを継続してきた成果が表れている。
▲算数に関する質問はどの項目も全国平均を下回っているが、全国平均との差は小さくなっている。
▲平日の家庭学習時間は、全国平均に比べ「2時間以上」は下回り、「1時間以上」は上回っている。家庭と連携し、家庭学習の習慣化に取り組んでいく必要がある。
▲平日の「TV・DVD2時間以上」「TVゲーム2時間以上」の児童は昨年同様、全国、県平均を上回っており、家庭と学校とが連携をはかり、家庭学習の時間の増に取り組んでいく必要がある。

本市としての今後の対策

◎生活と学力の向上を一体とらえる視点を大切にし、良好な人間関係のもとにいきいきと学び合い、お互いに表現し合える学級づくりを推進するため、学級づくりに関する講話や研修会を実施するとともに、各校への支援を行う。
◎標準学力検査及び全国学力学習状況調査の結果を分析し、改善すべき課題を明確にするとともに指導の在り方を検討し、各校への指導主事の訪問を通して、校内授業研究会の充実及び授業改善に向けた取り組みへの支援を行う。
◎「小中授業力向上研修会」を実施し、酒田市教育研究所との連携を図りながら、小中学校の校種を越えて「思考力」「知識・技能を活用する力」の育成や「言語活動」の充実を意図した授業づくりに取り組み、指導技術の向上と授業改善を進めるとともに、研修の成果を拡充していく。
◎家庭生活の中に読書が、今以上に浸透するように、読書を通して身につくことを家庭と共有し、広めていく必要がある。
◎学校が家庭と連携したり、保護者が主体となったりしてTVやパソコンを使用しないようにする「アウトメディアデー」等を設定するケースが増えている。この取り組みを各校に推奨し、児童自身がメディアを適切に使用できるようにしていく。